

区分・種別	天然記念物		
名 称	みさき あこう 三崎のアコウ		
所 在 地	西宇和郡伊方町三崎		
所 有 者	伊方町ほか	管 理 団 体	伊方町
指定年月日	大正10年3月3日		
解 説	アコウ樹は、熱帯または暖地性のクワ科植物であり、海岸近くに自生することが多い。幹の周囲から気根を出し、葉は楕円形で先端は鋭尖形^{えんせんけい}、基部は円形である。春に一度落葉するが、すぐ再び新葉を出す。 植物生態学上、その限界地を保存することはきわめて重要なこととされ、自生地^{みせ}の北限として、また巨木として4株（指定時7株であったが枯死）が指定されている。 海岸の人家に接して3株の大木があり、この地をアコギ（アコウの地方名）と呼んでいることでも、アコウがこの地に古くからあったことがわかる。 4株のうち最大のものは根回り7.5m、目通り6m、樹高12mである。いずれも発育はきわめて盛んであり、この地がアコウの生育に適していることを示している。		

